

平成30年度 大阪市立堀江中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	学校	184	74	61	65	44	65	4.3	4.5	3.6	17.0	6.3
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0
	大阪府		75	59	65	46	64	3.4	3.9	3.7	14.8	5.9

調査結果から

【全国学力・学習状況調査について成果と課題】

- ・平均正答率については全国平均より全てにおいて下回り、平均無解答率は全国平均より全てにおいて上回った。
- ・生徒質問紙については、全国・大阪市と比較しても全体的に肯定的回答の割合が低かった。特に、全国や大阪市より低く課題が残った項目として、1「自分には良いところがあると思う」が66.3%で全国より-12.5ポイント、2「先生はよいところを認めてくれていると思う」が66.8%で全国より-15.4ポイント、8「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」が62.5%で全国より-11.7ポイント、11「自分で計画を立てて勉強している」が37.5%で全国より-14.6ポイント、54「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりしていることができている」が64.1%で全国より-12.2ポイントであった。中でも昨年度63.7%で全国を13ポイント上回り改善が見られた12「学校の授業の予習・復習をしている」が31.0%で全国より24.2ポイント下回った。全国との差が小さかった項目としては4「学校の規則を守っている」が94.6%で全国よりも-0.5ポイント、9「毎日、同じくらいの時刻に起きている」が90.2%で全国よりも-0.1ポイントであった。学校生活はルールに基づいて生活しようという意識が全体的に高い。また、23「地域社会へのボランティア活動への参加」は66.8%で全国よりも6.8ポイント下回ってはいるが、昨年度よりも5.9ポイント上回った。

平成30年度 大阪市立堀江中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【成果と課題】

《国語》

学習指導要領の各領域の平均正答率について、国語A・Bとも「読むこと」領域のみ全国平均を僅かに上回ったが、その他A・B 3つの領域では1.3~2.4ポイント下回った。目的や場面に応じて話したり聞いたりする指導の工夫、目的や意図に応じてあいてに分かりやすく書く指導の工夫、語感を磨き語彙を豊かにする指導の工夫等、指導の改善が課題である。

《数学》

学習指導要領の各領域の平均正答率について、数学A「図形」領域のみ僅かに全国平均を上回ったが、数学A・Bとも他の領域で全国平均を下回った。特に数学Bの「図形」「関数」は大阪市平均より0.2ポイント、0.9ポイント下回った。

生徒質問紙からは、「数学の勉強が好き」55.4%、「数学の授業の内容はよく分かる」72.8%で、全国より1.5ポイント、1.8ポイント上回っているのにもかかわらず、平均正答率等の結果には結びついていない。家庭での復習や繰り返し学習が行われていないことが原因と考えられる。

《理科》

学習指導要領の各領域の平均正答率について、「物理的領域」は全国平均を0.8ポイント上回ったが、その他の領域で全国平均を下回った。特に「化学的領域」は大阪市平均より0.5ポイント下回った。

生徒質問紙からは、「理科の勉強は好き」62.5%で全国平均レベルにもかかわらず、学習の内容がよく理解できていない現状が見られる。観察や実験に関する学習に課題があると考えられる。

【今後に向けて】

《国語》

今後も引き続き、主体的に授業に参加する態度を育み、生徒が主体的に目的を明確にして話し合う言語活動、読書活動、相手に分かりやすく「書くこと」の取組、内容を的確に捉え読み取る力を育成する取組を推進する。また、語感を磨き語彙を豊かにする指導の工夫として、それぞれの語句が文の中でどのように使用されているのか、どのように活用すればいいのか等、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についても、漢字・語句プリントを活用して繰り返し学習をすすめていく。

《数学》

ICTの有効活用を通して分かりやすい授業の工夫、授業用ノートの活用を通して家庭学習の充実を図る。定期テスト・単元別小テスト、外部テスト等の結果を分析することで、生徒の実態を把握とともに生徒自身が自己の学力を知るなど、今後の学習に役立てていく。また、習熟度別授業・放課後学習・長期休業期間における補充学習によって個別指導の強化に取り組む。

《理科》

授業において、基礎的・基本的な知識が日常生活とかかわりがあることに気付かせたり、ICTの有効活用および実験を通して自然の事物や現象を捉えさせたりすることで、理科に対する学習意欲を高めさせる。観察・実験の学習活動では、「予想や仮説を立て、検証すること」「結果を分析して解釈できること」等、課題を設定して科学的に探究する活動を充実させる。

全教科においては「言語力や論理的思考能力の育成」に向け、「ICTの活用」「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業づくりにさらに取り組む。校内研修会等を実施し教員の実践的指導力の向上を図るとともに、基本的な生活習慣の確立においても、学校・家庭・地域と連携し、生徒会活動の「5つの取り組み」をさらに全生徒に定着させる。また、地域貢献等「ボランティア活動への参加」の取組を推進し、自尊感情や自己有用感を育成する。